

## 平成26年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成25年8月2日

上場会社名 株式会社ユニバーサルエンターテインメント  
 コード番号 6425 URL <http://www.universal-777.com>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役  
 四半期報告書提出予定日 平成25年8月2日  
 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(氏名) 富士本 淳  
 (氏名) 麻野 憲志

TEL 03-5530-3055

上場取引所 東

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成26年3月期第1四半期の連結業績(平成25年4月1日～平成25年6月30日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年3月期第1四半期	5,694	△73.4	△2,525	—	△1,648	—	△1,251	—
25年3月期第1四半期	21,371	82.3	7,723	50.2	9,834	30.8	6,837	△9.8

(注) 包括利益 26年3月期第1四半期 7,260百万円 (△38.4%) 25年3月期第1四半期 11,789百万円 (30.6%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年3月期第1四半期	△17.05	—
25年3月期第1四半期	92.02	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
26年3月期第1四半期	208,354	169,200	80.9	2,295.55
25年3月期	218,197	163,393	74.5	2,216.09

(参考) 自己資本 26年3月期第1四半期 168,455百万円 25年3月期 162,624百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年3月期	—	30.00	—	20.00	50.00
26年3月期	—	—	—	—	—
26年3月期(予想)	—	—	—	—	—

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無  
 平成26年3月期の配当予想は未定としております。

### 3. 平成26年3月期の連結業績予想(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	33,300	△17.7	7,200	△50.3	7,100	△61.2	4,100	△67.3	55.87
通期	102,800	3.6	31,000	△13.6	30,700	△31.6	17,800	△35.2	242.56

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無  
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	26年3月期1Q	80,195,000 株	25年3月期	80,195,000 株
② 期末自己株式数	26年3月期1Q	6,811,154 株	25年3月期	6,811,154 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	26年3月期1Q	73,383,846 株	25年3月期1Q	74,308,946 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期財務諸表に対する四半期レビュー手続は終了しております。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期連結財務諸表 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	6
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間 .....	6
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間 .....	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	8
(継続企業の前提に関する注記) .....	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	8
(4) 追加情報 .....	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間における世界経済は、米国における景気は緩やかな景気回復が続いており、先高期待感から米国株式市場も堅調に推移しておりますが、一方、欧州における景気は一部に下げ止まりの兆しが見られるものの、ユーロ圏における失業率は上昇傾向にあり、各国の財政緊縮による影響などが懸念され、依然として弱含みに推移しております。アジア諸国においては、中国における景気は輸出や生産の伸びが鈍化しており、景気の拡大テンポが依然として緩やかなものとなっており、韓国、台湾においても景気の拡大は足踏み状態となっております。

わが国の経済は、製造業を中心に企業収益は改善しており、設備投資は下げ止まりつつあります。雇用情勢は厳しさが残るものの徐々に改善してきており、個人消費も持ち直しつつあります。

また、円高の是正や株価上昇等による景気回復への期待感も高まっており、実体経済への反映が期待されております。

そのような中、当社グループの主力事業であるパチスロ・パチンコ事業においては、5月にパチスロ機『鬼の城』の市場導入を開始するとともに、前期からの継続販売機種種の販売を行いました。

これらの結果、売上高は5,694百万円（前年同期比 73.4%減）、営業損失は2,525百万円（前年同期 営業利益7,723百万円）、経常損失は1,648百万円（前年同期 経常利益9,834百万円）、四半期純損失は1,251百万円（前年同期 四半期純利益6,837百万円）となりました。

なお、事業セグメント別の業績は以下の通りであります。各業績数値はセグメント間売上高または振替高を調整前の金額で記載しております。

#### ①パチスロ・パチンコ事業

パチスロ市場においては、主軸であるART機に加えてAT機が多機種導入されたことや、大型タイトルの導入もあり、稼動は安定し、設置台数も増加傾向にあります。一方パチンコ市場においては、設置台数の減少に歯止めがかからず、稼動も低下しております。

そのような中、当社グループは、当期の第一弾として、パチスロ機『鬼の城』の市場導入を行いました。当タイトルは、数々の画像、映像、舞台作品のビジュアルコンセプトやキャラクターデザイン等を手がけるイラストレーター天野喜孝氏によるキャラクター原案・監修のもとで開発が行われ、パチスロ×ファンタジーのコラボレーションを実現させたパチスロ機となっております。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間におけるパチスロ機の導入台数は約12千台となり、パチスロ・パチンコ事業の売上高は5,069百万円（前年同期比 75.6%減）、営業利益は30百万円（前年同期比 99.7%減）となりました。

#### ②その他

メディアコンテンツ事業においては、第1四半期に、新規で有料のスマートフォンコンテンツを配信しておりませんが、前年度に配信した『バジリスク～甲賀忍法帖～Ⅱ』のシミュレーターアプリは、GooglePlay及びAppStoreの両方で、おおよそ1年にわたりランキング上位を維持しており、大変好評をいただいております。また昨年度末より、GooglePlayで配信中のシミュレーターアプリを、会員制WEBサイト「ユニバ王国」でもお楽しみいただけるよう、順次対応を行っており、現在5機種が月額定額でプレイできるようになりました。これにより「ユニバ王国」においても着実に会員数を増やしております。

パチンコ・パチスロ専門チャンネル「パチンコ★パチスロTV！」を運営する日本アミューズメント放送株式会社では、第1四半期ではスカパー！放送事業の売上についてはスカパー！自体の大幅な全体加入件数減少の影響並びにHD配信開始によるビジネススキームの変更により前年度に比べ減少いたしました。しかしながら、サイマル放送事業ではSOFTBANKグループの新規サービス「BBTV-NEXT」及びYOUテレビや愛媛CATV等新たにケーブルテレビ4局で配信が開始され、ユーザーへの認知度が高まり視聴世帯数は大幅に伸び売上にしましては前年同期に比べ23%増となっております。またインターネットやビデオ・オン・デマンドのコンテンツ配信事業においては、フィーチャーフォンのシェア縮小に伴う売上減少をスマートフォンへのサービスの拡大等を行いカバーし、こちらも前年同期に比べほぼ同等の売上となっております。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間におけるその他売上高は673百万円（前年同期比 8.1%増）、営業損失は314百万円（前年同期 営業損失601百万円）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第1四半期連結会計期間末における流動資産は88,243百万円となり、前連結会計年度末に比べ21,612百万円減少いたしました。これは主に現金及び預金が16,328百万円減少したことによるものであります。固定資産は120,111百万円となり、前連結会計年度末に比べ11,769百万円増加いたしました。これは主に有形固定資産が7,584百万円増加したことによるものであります。

この結果、総資産は、208,354百万円となり、前連結会計年度末に比べ9,842百万円減少いたしました。

(負債)

当第1四半期連結会計期間末における流動負債は32,353百万円となり、前連結会計年度末に比べ14,823百万円減少いたしました。これは主に支払手形及び買掛金が8,284百万円減少したことによるものであります。固定負債は6,801百万円となり、前連結会計年度末に比べ825百万円減少いたしました。これは主に社債が990百万円減少したことによるものであります。

この結果、負債合計は、39,154百万円となり、前連結会計年度末に比べ15,649百万円減少いたしました。

(純資産)

当第1四半期連結会計期間末における純資産合計は169,200百万円となり、前連結会計年度末に比べ5,806百万円増加いたしました。これは主に為替換算調整勘定が8,521百万円増加したことによるものであります。

この結果、自己資本比率は80.9%（前連結会計年度末は74.5%）となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

①パチスロ・パチンコ事業

第2四半期におきましては、当期の第二弾となるパチスロ機『緑ドン～キラメキ！炎のオーロラ伝説～』の市場導入を行います。当タイトルは5月27日に発表会を開催し、多くの業界関係者の方々にご来場いただき好評を博しました。南米を舞台にした前作の『緑ドンV I V A！情熱南米編』はロングヒット機種となり、7万台を越える市場導入でパチスロ市場を牽引いたしました。今作の緑ドンは、舞台を北欧へ移し、更なる進化を遂げ、ユーザーの皆様へ「楽しい！」をお届けしてまいります。

『緑ドン～キラメキ！炎のオーロラ伝説～』はおかげさまで初期ロットは完売となっており、8月5日より順次全国のホールへ導入されます。

また、7月23日にはパチスロ機『リバティベルV』の記者発表会を行っており、9月の市場導入に向けて販売活動を開始しております。

第1四半期における新規タイトルの投入は、パチスロ機『鬼の城』のみとなっておりますが、第2四半期においては、大型タイトル『緑ドン～キラメキ！炎のオーロラ伝説～』が初期ロット完売となっていることに加え、パチスロ機『リバティベルV』の投入もあり、当初の計画通り順調に推移しております。

②その他

メディアコンテンツ事業においては、最新パチスロ機『緑ドン～キラメキ！炎のオーロラ伝説～』の稼働に合わせ、スマートフォン向けシミュレーターを鋭意開発しております。シミュレーターの品質として、デバイスに特化したユーザーインターフェースの構築や、これまで以上の演出再現度等、改良を重ねており、より楽しんでいただけるように工夫しております。また会員制WEBサイト「ユニバ王国」ではシミュレーターアプリとサイトとの連動性を高めることで、より一層お楽しみいただける環境の整備を行ってまいります。

日本最大のパチンコ・パチスロ専門チャンネル「パチンコ★パチスロTV！」を運営する日本アミューズメント放送株式会社では、7月からケーブルテレビ最大手のJ:COMへの提供が決定しております。今後は更なるケーブルテレビ業界を視野に入れた放送事業の拡大、パチスロ・パチンコ市場全体の活性化を図るための新規スキームによる番組制作並びによりユーザーに支持される番組編成を行ってまいります。

また、当社グループがフィリピンで推進しているカジノリゾートプロジェクト「マニラベイリゾーツ」においては、改めて現地パートナー企業との提携合意に向けて作業を進めております。建設工事の進捗としては、基礎・土台工事が終わり、低層部の躯体工事に入っております。

3. 四半期連結財務諸表  
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	64,372	48,044
受取手形及び売掛金	11,694	3,128
有価証券	116	123
商品及び製品	545	663
仕掛品	5,352	6,055
原材料及び貯蔵品	19,206	20,878
繰延税金資産	1,806	2,052
その他	6,844	7,317
貸倒引当金	△83	△19
流動資産合計	109,856	88,243
固定資産		
有形固定資産		
土地	35,841	38,569
その他	22,693	27,550
有形固定資産合計	58,535	66,119
無形固定資産		
その他	617	677
無形固定資産合計	617	677
投資その他の資産		
投資有価証券	42,526	46,214
長期未収入金	1,224	1,224
その他	8,512	8,965
貸倒引当金	△3,074	△3,091
投資その他の資産合計	49,188	53,313
固定資産合計	108,341	120,111
資産合計	218,197	208,354

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	13,869	5,585
短期借入金	9,132	8,825
1年内返済予定の長期借入金	811	686
1年内償還予定の社債	2,060	2,020
未払法人税等	15,994	10,078
賞与引当金	215	372
その他	5,094	4,785
流動負債合計	47,176	32,353
固定負債		
社債	2,140	1,150
長期借入金	4,676	4,910
資産除去債務	185	185
その他	625	554
固定負債合計	7,627	6,801
負債合計	54,804	39,154
純資産の部		
株主資本		
資本金	98	98
資本剰余金	10,852	10,852
利益剰余金	187,616	184,897
自己株式	△14,296	△14,296
株主資本合計	184,269	181,551
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△51	△23
為替換算調整勘定	△21,593	△13,071
その他の包括利益累計額合計	△21,644	△13,095
新株予約権	22	22
少数株主持分	745	721
純資産合計	163,393	169,200
負債純資産合計	218,197	208,354

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 (四半期連結損益計算書)  
 (第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)
売上高	21,371	5,694
売上原価	9,167	3,460
売上総利益	12,204	2,233
販売費及び一般管理費	4,480	4,759
営業利益又は営業損失(△)	7,723	△2,525
営業外収益		
受取利息	9	67
受取配当金	5	4
持分法による投資利益	1,552	—
為替差益	429	878
その他	141	53
営業外収益合計	2,138	1,004
営業外費用		
支払利息	21	79
支払手数料	0	15
その他	5	32
営業外費用合計	26	127
経常利益又は経常損失(△)	9,834	△1,648
特別利益		
持分変動利益	57	—
関係会社株式売却益	—	36
特別利益合計	57	36
特別損失		
投資有価証券評価損	55	—
固定資産除却損	0	2
特別損失合計	55	2
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	9,836	△1,614
法人税、住民税及び事業税	2,514	13
法人税等調整額	526	△338
法人税等合計	3,040	△324
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益調整前四半期純損失(△)	6,795	△1,289
少数株主損失(△)	△42	△38
四半期純利益又は四半期純損失(△)	6,837	△1,251



(四半期連結包括利益計算書)  
(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失(△)	6,795	△1,289
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△19	28
為替換算調整勘定	4,989	8,521
持分法適用会社に対する持分相当額	23	—
その他の包括利益合計	4,994	8,549
四半期包括利益	11,789	7,260
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	11,831	7,298
少数株主に係る四半期包括利益	△42	△38

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(4) 追加情報

(訴訟)

Wynn Resorts, Limited (NASDAQ: WYNN, 以下「ウィン・リゾーツ社」という) 及び同社取締役会は、2012年2月18日、当社及び当社連結子会社であるAruze USA Inc. をウィン・リゾーツ社の株主として不適任であるとし、ウィン・リゾーツ社が、Aruze USA Inc. が保有するウィン・リゾーツ社株式 (24,549,222株、発行済株式に対する持分割合: 当時19.66%) を同日のウィン・リゾーツ社株式時価の約30%の割引価格で10年満期の長期受取手形を対価として償還することを一方的に決定し、実行したと主張しております。また、ウィン・リゾーツ社は翌19日、当社及びAruze USA Inc. に対して、当社取締役会長岡田和生による忠実義務違反を幫助したことによる損害賠償及び上記株式償還の決定について宣言的救済を求めた訴訟を提起しております。

それを受け、当社及びAruze USA Inc. は、2012年3月12日に、ウィン・リゾーツ社への投資を保全するために必要な法的措置の一環として反訴を提起し、ウィン・リゾーツ社による不適切な株式償還に対する差止め命令及び裁判所の宣言的救済を求めるとともに、不適切な株式償還及び詐欺的行為に関与したスティーブ・ウィン氏、並びにウィン・リゾーツ社の執行役員及び各取締役に対し、損害賠償等を求めております。

当該反訴手続は、今後ディスカバリー及び証言録取等の証拠開示手続を経た後、トライアルにおいて証人尋問等を経て判決に至るという過程となるため、最終的な結論が出るまで相当期間がかかることが予想されます。さらに、Aruze USA Inc. が保有するウィン・リゾーツ社株式の償還に関する訴訟におけるすべてのディスカバリーは現在、6カ月間延期されています。従いまして、現時点では実体的判断の帰趨及び時期のいずれについても見通しがつかない状況であり、当社においては予測予断を持って判断を行わず、本反訴請求の結果事実の確定が成されれば、即時にそれに従って適正な処理と開示を行うことが妥当と判断しております。このため、本反訴請求の結果により発生する可能性のある当社及び連結子会社等からなる企業集団の特定期間の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に与える影響を確実に見積もることが困難である事実を踏まえ、前連結会計年度末よりウィン・リゾーツ社株式を取得原価で評価しております。